茅野市八ヶ岳総合博物館紀要２：31-36（1992）

平成３年度市内遺跡発掘調査の概要

茅野市教育委員会文化財調査室

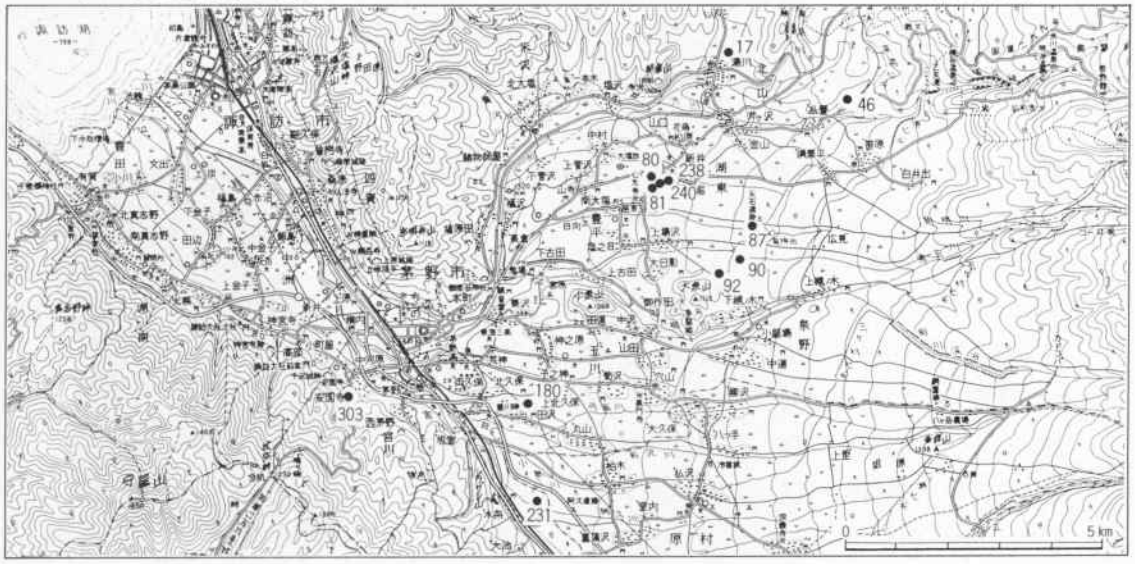
平成３年度に文化財調査室が実施した遺跡の発掘調査は，圃場整備，工業団地造成，住宅団地造成，国道改良等に伴う緊急発掘調査がほとんどであり，学術調査として実施したものは平成２年度に続く尖石遺跡の保存整備事業に伴う試堀調査が１件である。

市内での圃場整備等の大規模な開発は，特に八ヶ岳山麓で進んでいる。八ヶ岳山麓は市内でも縄文遺跡を中心に原始・古代の遺跡が濃密に分布する地域である。このため本年度に発掘調査のなされた遺跡は，安国寺区に所在する小飼通遺跡以外はすべて八ヶ岳山麓に位置するものであった。

八ヶ岳山麓での大規模な開発は，今までの単独の遺跡，ないしはその一部といった規模の調査から，遺跡群を広域的に調査するという機会をなした。その点では本年度の調査でも山麓史の叙述の上に新視覚を加えるような，縄文から中世の各時代にわたる多くの出土遺物，遺構等の資料や新知見が得られた。それらの調査された遺跡とその成果の概要は後に記してある。

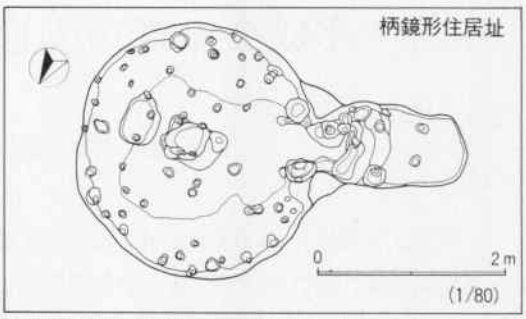
反面，開発で貴重な遺跡が消滅しているという現実がある。そうした状況の中で，阿久尻遺跡Ａ区が発掘調査後保存されたこと，上ノ段遺跡の調査予定地が試掘調査の結果を基に部分的に保存されたこと，鴨田遺跡の一部が公園用地として残されたことなどは特に記すべきことであった。

（鵜飼幸雄）



平成３年度調査遺跡

上ノ段遺跡（No.17）



所在地　　茅野市北山柏原

調査面積　　1,700㎡

時期　　縄文時代前期末，後期前半，平安時代後半

検出遺構　　縄文時代前期末竪穴住居址１，後期前半柄鏡形竪穴住居址１，後期前半方形柱穴列５，平安時代竪穴住居址１，土壙，ピット

調査の動機　　県営圃場整備事業柏原地区に伴う緊急発掘調査

上ノ段遺跡は昭和17年に国史跡に指定されており，今回の調査は，この指定地範囲外を遺構確認を含めて調査が行われ，ほぼ西側の限界を把握することができた。調査区中央部に確認できた遺構は，遺跡の重要性を考え埋没保存された。記録保存がなされた部分は遺跡の東側を流れる蓮井沢川に沿った部分で，この部分より上記の遺構が検出された。後期前半の遺構群は一定の範囲に，蓮井沢川に沿った形で帯状に分布している。遺構の重複関係より２時期に分けられる。柄鏡形住居址の検出は市域に於いては初所見である。方形柱穴列や柄鏡形住居址の検出より，後期前半に於いて拠点的な大規模な集落であったことが窺え，本遺跡が複雑な内容を有していることを改めて認識させられた。　　（守矢昌文）

珍部坂Ａ・Ｂ，水尻，城遺跡（No.238，No.240，No.82，No.81）

所在地　　茅野市湖東堀

調査面積　　5,042㎡

時期　　縄文時代早期末前期初頭，中期初頭，中期前半，平安時代後半

検出遺構　　縄文時代中期前半竪穴住居址３基，土壙55基，平安時代後半竪穴住居址２基

出土遺物　　縄文時代早期末前期初頭繊維土器，中期初頭から中期前半土器・石器，土偶，平安時代後半土師器・須恵器片

調査の動機　　県営圃場整備事業堀地区に伴う緊急発掘調査

珍部坂，水尻，城遺跡は日影田川を挟んで立地し隣接する遺跡である。遺跡の規模としては小規模なもので，調査前まではその実態も不明であった。今回の調査により遺跡の範囲・時期等が判明し，ほぼ３遺跡の性格を捉えることができた。遺物をみた場合珍部坂遺跡より検出された土偶や個々の遺跡における石器組成より，３遺跡の内容には若干の差が認められ，相互で関連を持ちながら存在していたことが推察できた。３遺跡は立地こそ違うものの互いに密接な関係を有して群を構成していたことが考えられる。　　（守矢昌文）

中原遺跡（No.92）

所在地　茅野市泉野下槻木

調査面積　2,400㎡

時期　縄文時代早期末前期初頭，中期初頭

検出遺構　縄文時代早期末前期初頭竪穴住居址２基，陥し穴１基，土壙６基

出土遺物　縄文時代早期末前期初頭土器，中期初頭土器，石器

調査の動機　県営圃場整備事業槻木地区に伴う緊急発掘調査

中原遺跡は長峰状の孤立した尾根状台地に立地する小規模なものである。今回の調査により検出された遺構・遺物は少量であったが，その内容はこの地区では貴重であり，この地域が持つ特性の一部を把握することに必要な資料である。特に早期末前期初頭の住居址の存在は八ヶ岳西南麓に於いては初所見のもので，住居址内より検出された東海系の天神山式，南関東系の打越式の共伴関係は当地域の早期末前期初頭の土器群のあり方を考えるうえに重要である。１号住居址とした中期初頭の住居址は直径が９ｍもある大形住居で，その性格について注目するところである。本遺跡の石器組成等を見た場合狩猟具が主体を占め，昨年調査が行われた隣接する台地に位置した上見遺跡より陥し穴群が検出されていることを考慮すると，この地域が早期末前期初頭，中期初頭と伝統的にこの地が狩猟の場として利用された領域であったことが窺えた。（守矢昌文）

小飼通（出頭）遺跡（No.303）

所在地　茅野市宮川安国寺

調査面積　300㎡

時期　縄文時代中期後半

検出遺構　縄文時代住居址１基，土坑７基

出土遺物　縄文時代中期後半土器・石器

調査の動機　国道256号線道路改良事業に伴う緊急発掘調査

出頭遺跡第１号住居址

出頭遺跡では，縄文時代の住居形式として一般的に知られている竪穴式住居址は検出されなかった。住居址と考えた遺構は，焼土と貼床，土器の集中箇所で構成されたもので，住居址の壁は住居址断面の土層観察で不明確ながら把えることができたが，柱穴は斜めになった柱穴が１基確認されたのみで，一般的な垂直の堀り方をもつ柱穴はない。この遺構がどういう意図のもとに作られたのか不明であるが，山際に立地していること，近くに出頭遺跡とほぼ同時期と考えられる小飼通遺跡があることなどから，移動の際のキャンプサイト，出作り小屋あるいは小飼通遺跡の集落のはずれに設けられた作業場などの用途が推定できる。（功刀司）

鴨田遺跡（No.90）

所在地　茅野市豊平上場沢

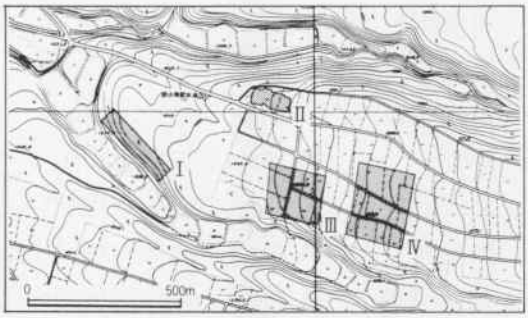
調査面積　14,745㎡

時期　先土器時代，縄文時代中期から後期前半，平安時代

検出遺構　縄文時代住居址13基，方形柱穴列１基，竪穴状遺構１基，竪穴１基，焼土址１基，土坑257基
平安時代住居址１基

出土遺物　縄文時代中期から後期前半土器・石器
平安時代土師器・灰釉陶器

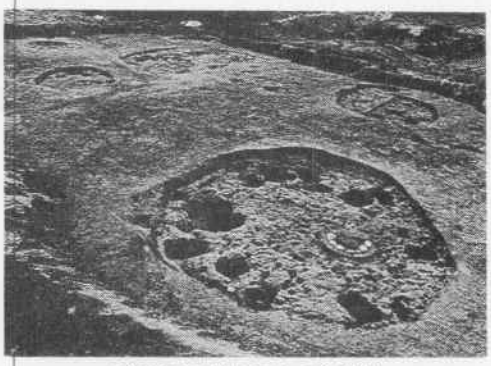
調査の動機　住宅団地「グリーンヒルズ・ヴィレッジ」造成に伴う緊急発掘調査



鴨田遺跡調査区位置図（S=1/10,000）

鴨田遺跡の調査は，平成２年度に試掘調査が行われ，その結果をもとに本年度の調査区域が設定されている。

台地上の広い範囲に遺構が分布し，遺構の種類や密度は，調査区域により偏りをみせる。住居址は，台地先端の南西斜面（調査区域Ｉ）に集中している。中期前半から後期前半までの住居址があるが，継続して営まれていた集落ではない。台地北側斜面に近い場所（調査区域II）には住居址がなく，中期初頭の土坑と，中期末から後期前半の土坑約80基，方形柱穴列や焼土址といった用途不明の遺構が，約600㎡の調査区内から密集して検出された。いずれの遺跡も縄文時代の葬制や祭祀に関係するとの説があり，この場所が特殊な利用のされかたをしていた可能性がある。台地中央から南斜面にかけての広大な範囲（調査区域III・IV）には，土坑の集中箇所が４ヶ所ほどあるのみで他の遺構はない。この台地中央につくられた土坑群では遺物の出土が少ないため，時期不明の土坑が多いが，中期初頭の遺物が出土した土坑が数基ある。土坑の集中箇所は，３基から７基の土坑で構成され，各々の土坑は規模，形態が似通っている。土坑の用途，時期など不明な点が多いながら，縄文時代における何らかの集団の単位を反映したものと考えられ興味深い。この他，中期初頭の土坑が多く検出されたのに対し，中期初頭の住居址は検出されなかったことも注目すべき点である。（功刀司）


鴨田遺跡調査区Ｉの集落址

阿久尻遺跡（No.231）

所在地　　茅野市金沢木舟

調査面積　　29,300㎡（下原山・茂佐久保遺跡を含む）

時期　　縄文時代前期前半から中期

検出遺構　　縄文前期住居址11基，中期住居址８基，前期方形竪穴15基，土坑19基

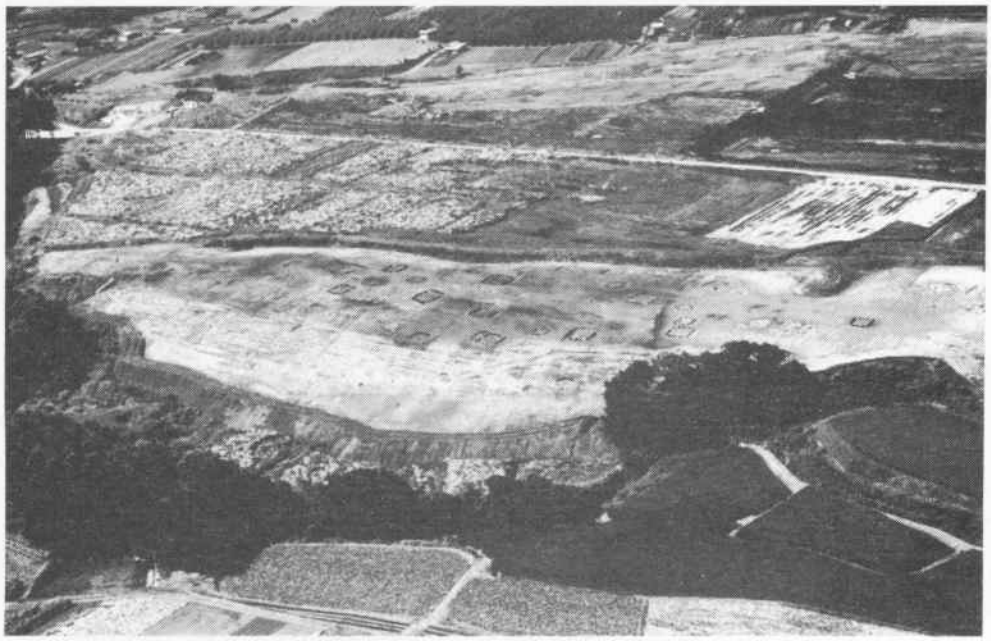
出土遺物　　縄文時代前期から中期の土器・石器

調査の動機　　県営金沢工業団地の造成に伴う緊急発掘調査

阿久尻遺跡の調査は，平成２年度に試掘調査とＡ・Ｂ区の調査を行い，本年度にＣ区の調査を行った。本遺跡は遺構の分布から台地東側のＡ区と，台地の先端にあたる西側のＢ・Ｃ区の２地区に分けることが出来る。西側の地区をＢ・Ｃ２地区に分けてあるのは調査年度の違いによるもので，同一の集落と考えられる。昨年の紀要では紹介してないので，２年間にわたる調査の内容を記したい。

Ａ区からは縄文時代前期前半の住居址が15軒，同時期と考えられる方形柱穴列が１棟，土坑が33基，平安時代の住居址が１軒検出されている。Ｂ区からは縄文時代前期前半と考えられる住居址が５軒，同時期と考えられる方形柱穴列が４棟，縄文時代早期と考えられる住居址が１軒，土坑が10基検出されている。

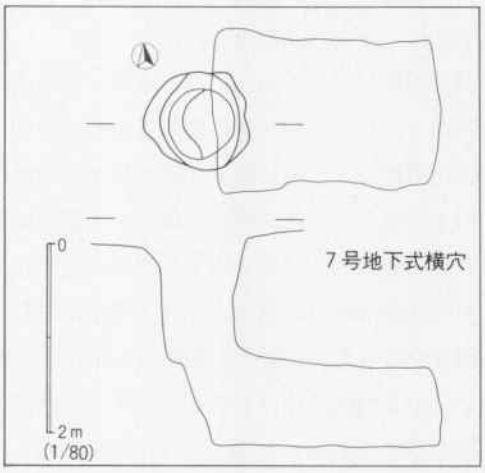
Ｃ区で検出された遺構は，縄文時代前期前半と考えられる住居址が11軒，同時期と考えられる方形柱穴列が15棟，土坑が19基である。また，台地南のかなり急な斜面についても遺構の検出作業を行い，中期と考えられる住居址を８軒検出した。　　（小林深志）



阿久尻遺跡Ｂ・Ｃ区を上空より望む

神垣外遺跡（No.180）

所在地　茅野市宮川田沢
調査面積　6,000㎡
時期　中世
検出遺構　中世方形竪穴５基，地下式横穴13基，土間状遺構３基，土坑180基，ピット多数
出土遺物　中世陶磁器，土師質土器，石製品，金属製品，銭貨
調査の動機　団体営圃場整備事業に伴う緊急発掘調査

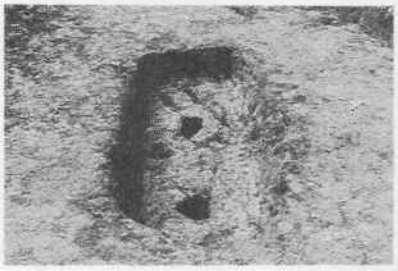


神垣外遺跡からは前述の遺構が検出されているが，特に地下式横穴について紹介したい。

本遺跡からは，13基の地下式横穴が検出されている。共通点として，開口部は１ヶ所で，足掛けを持ち，単室の室部からなることを上げることが出来る。また，遺構に伴うと考えられる遺物の出土のないこともすべてに共通している。相違点としては，室部の規模や形態，方向に規則性が見られないことが上げられる。地下式横穴の用途については，最近の多くの調査例から墓であるとの考えにまとまりつつあるように見受けられる。しかし，本遺跡の地下式横穴は，規模に大きな差があることから，様々な用途に用いられたのではないかと考えられる。当初，土坑としていた13号地下式横穴の様な，小さく浅い地下式横穴の存在が，逆に用途を考える上で，参考になるのではなかろうか。　（小林深志）

床滑遺跡（No.46）

所在地　茅野市北山芹ヶ沢
調査面積　290㎡
時期　縄文時代
検出遺構　縄文時代陥し穴３基
出土遺物　黒曜石片
調査の動機　県営圃場整備事業


床滑遺跡一号土坑

尖石遺跡（No.87）

所在地　茅野市豊平東嶽
調査面積　212㎡
時期　縄文時代中期
検出遺構　住居址２基，土坑４基
出土遺物　縄文土器・石器
調査の動機　保存整備事業に伴う試掘調査

尖石遺跡全景